

明日はもっと自由に。 気づいて、動いて、安心できる社会へ

パールライトアップ&パープルリボン運動 企画課地域振興班 ☎22-9105



11月12日〜25日は、「女性に対する暴力をなくす運動」

この期間、日本各地で建物やモニュメントが紫色に照らされ、平戸市でも平戸城と幸橋がライトアップされます。

「パールライトアップ」は、暴力のない社会を願う気持ちを一人ひとりが共有するための光であり、女性に対するあらゆる暴力の根絶を広く呼びかけるとともに、「全ての人が尊重される社会を」というメッセージを、私たちにそっと語りかけています。

また、同じ思いを込めた取り組みとして「パールリボン運動」があります。パールリボンツリーにリボンを結ぶ、リボンを身につける、SNSでこれらの写真を発信する、そのどれもが、暴力のない社会をつくるための大切な一歩になります。

私たちにできること

女性に対する暴力は、殴る・蹴るなど身体的なものだけではなく、言葉の暴力や長期間の無視、経済的な支配、相手が望まない性的な

行為など、形を変えて日常の中に潜んでいる場合があります。

自分には関係ないと思うかもしれませんが、周囲の誰かの小さな声に気づくこと、気づいたら勇気を出して声をかけてみるなどの小さな行動が支援の第一歩になります。

平戸市でも、期間中、市役所本庁ロビーや未来創造館などでパールリボンツリーの展示を行います。ツリーに結ばれた紫のリボンには、暴力のない社会を目指すという願いが込められています。

私たち一人ひとりができることは、小さいことかもしれませんが確かな力になります。あなたが結んだひとつのリボンが、誰かの勇気になるかもしれません。

現在、平戸市では「男女共同参画に関する意識調査」を実施中です。ぜひ、皆さまの声をお聞かせください。

男女共同参画に関する意識調査はこちら▼



Interview



平戸市内在住
井元 さん

このリボンに込められた思いをもっと多くの人に知ってほしい

「平戸市役所に来た時に準備中のツリーを見たんです。最初はきれいな飾りだなと思って近づいたんですけど、担当者から説明を聞いて、「女性に対する暴力をなくす運動」の一環だと知りました」と話すのは、平戸市内在住の井元さん。

「ボーン」という言葉を聞いたことがなく、ニュースなどでDVの話題を目にしても、どこか遠いできごとのように感じていました。

パールリボンツリーを見て、さまざまな暴力は、平戸のものと身近に存在することなのかもしれないと思うようになったといいます。

暴力をなくすことは、すぐにできることではありません。でも、知ること、話すこと、思いやること、それぞれができる「やさしさの行動」が積み重なれば、明日はもっと安心できる社会になっていくはずだと。

「リボンを結ぶという小さな行動の積み重ねが、より良い社会づくりに繋がればいいと思います」と話してくれました。

Interview



平戸市男女共同参画推進委員
中村 貴代美 さん

楽しみながら、誰もが自分らしく生きられるまちへ

平戸市の男女共同参画の取り組みに関心を持っていたところ、広報誌の委員募集を見たのがきっかけで、男女共同推進委員として昨年度から活動するようになりました。

推進協議会の最初の議題は「パールリボン運動」や平戸城と幸橋の「パールライトアップ」の取り組みが市民に浸透していない事への対応の検討でした。私自身も言葉は聞いたことがありましたが、それが「女性に対する暴力をなくす運動」(DVや性犯罪、セクハラ、ストーカー行為などの暴力が無い社会の実現に向けて、広く国民の意識を高める運動)であることを学びました。

「男女共同参画推進」という言葉を聞くと、女性のための運動と思う人もいらっしゃるかもしれませんが、私は「女性も男性も、年齢に関わら

ず、誰もがそれぞれの価値観や希望に応じて自分らしく、共に暮らしやすい社会を目指すこと」だと考えています。

「男性はこうあるべき」「女性はこうあるべき」など、無意識による思い込みが、自分や他人の可能性を狭めたり心身を傷つけたりしていないか、まずは「知ること」「気づくこと」が、社会を変える最初の一步になると思います。身近な人に優しく声をかけること、誰かの意見を否定せずに耳を傾けること、そうした小さな行動の積み重ねが、互いを尊重し合える地域社会(明るい未来の平戸)を育てていくのだと信じています。

10月末の平戸市福祉健康まつりでは、来場者と「パールリボン・ベア」の作成体験を行いました。「パールリボン運動」を知り「身近な人を大切にすること」に気づくきっかけになつてもらえたら嬉しいです。

パールリボン・ベア▼

